

緑の担い手

3年間の緑の 雇用研修を終えて

常陸太田市森林組合
田所正樹

私は、3年前に高校を卒業してすぐに森林組合に就職しました。きっかけは、常陸太田市里美地区に生まれ、小さい頃から自然に触れ合って育ったこともあり、林業の仕事に興味を持っていました。

私は人組して3年間、緑の雇用の研修を通じて多くの事を学びました。造林の基本である植付けのやり方や、伐倒作業の受け口と追い口の切り方、伐倒方向の向きや注意点など、普段自分ができていると思っている作業でも、先輩達を見ると自分のやり方と違うところが沢山ありました。自分が出来ていない部分はどこなのかと考える事も多くあり、一緒に受講した研修生や職場の先輩にアドバイスを貰いながら、自分なりに植栽や伐倒作業ができるようになってきました。うまく作業ができないことや分からないことがあった時に、自分で抱え込んでしまうことが多いので、上司や先輩に指導を仰ぎ、少しずつ

覚えていくと同時に、後輩が入社したときにしっかりと教えられる先輩になることが目標です。

今後は、研修で学んだことを生かし、事故のない安全な作業を心掛け、自然を守っていけるような仕事をしていきたいです。最近では、気象災害の激甚化が大きな問題となっており、地球温暖化を減速させるためにカーボンニュートラルの意識が高まっています。このことから、今、林業は丸太を生産するだけの仕事ではなく、豊かな自然環境を維持していくための役割を大きく担っていると思います。持続可能な社会の実現に向け、林業がより重要な職業の一つとなるよう、これから多くの経験を積み重ね努力していく所存です。

